

ミリ波ばく露時の温熱知覚閾値に関する研究 に係る採択評価書

研究機関 : 福島県立医科大学、東京工業大学 (下線は代表者研究機関)

研究開発期間 : 平成27年度～平成29年度

代表研究責任者 : 宇川 義一(福島県立医科大学)

■ 実施可能性 : 適

■ 総合順位 : 第 1 位 / 提案者 1 名

(評価点32点 / 40点中)

(総論)

先駆的な研究であり、ミリ波帯の電波防護指針の科学的根拠を構築するためにも不可欠かつ重要である。

(コメント)

- ミリ波帯の電波防護指針の科学的根拠を検証するために不可欠な、重要な研究である。
- ヒトを対象とした実験による基礎データの作成は必要である。
- 同様の研究があまり行われていない先駆的な研究であり、重要な研究計画である。

無線通信等による電波ばく露の定量的実態把握と脳腫瘍の罹患状況に基づくリスク評価に係る採択評価書

研究機関 : 首都大学東京、東京女子医科大学 (下線は代表者研究機関)

研究開発期間 : 平成27年度～平成29年度

代表研究責任者 : 多氣 昌生(首都大学東京)

■ 実施可能性 : 適

■ 総合順位 : 第 1 位 / 提案者 1 名

(評価点35点 / 40点中)

(総論)

これまでの優れた研究実績を基に、挑戦的な内容が組み立てられており、成果が期待できる研究である。

(コメント)

- これまでの優れた研究実績を基に、電波ばく露の定量実態把握とリスク評価の新しい展開を拓こうとしており、高く評価できる。
- これまでの疫学的手法にとどまらず、電波ばく露と疫病の因果関係のシミュレーション等、挑戦的な内容が含まれており、成果が期待される。
- IARCの電波と脳腫瘍リスクの関係についての発表は、今後もモニタリングや調査の拡張が必要であることを表している。環境ばく露をできるだけ定量的に把握する本研究のような試みは必要である。

中間周波数帯の電磁界(特に 100kHz 帯の磁界)における非熱的生体作用の検討に係る採択評価書

研究機関 : 明治薬科大学、首都大学東京 (下線は代表者研究機関)

研究開発期間 : 平成27年度～平成29年度

代表研究責任者 : 石井 一行(明治薬科大学)

■ 実施可能性 : 適

■ 総合順位 : 第 1 位 / 提案者 1 名

(評価点32点 / 40点中)

(総論)

100kHz 帯域の電磁界の非熱的生体作用について、重要な研究課題に取り組んでおり、必要な研究である。

(コメント)

- 100kHz 帯域の電磁界の非熱的生体作用についての重要な研究課題に取り組んでいる。
- 研究内容がかなり多いが、遂行可能と判断できる。
- 生体影響はかなり網羅的に調べられるようになっている。